



樽病だより

# こころ

第2巻 第3号  
発行日  
平成19年10月  
市立小樽病院広報委員会  
電話25-1211

## 臨床検査技師って？

検査技師長 鈴木 正信

『臨床検査技師ってどんな仕事をしているのですか？』患者さまに限らずよく聞かれる質問です。そこで『病院にかかった時、血液や尿の検査をしたことはありませんか？』心電図や肺機能検査をしたことはありますか？』と逆に問いかけ、『その検査に携わっているのが臨床検査技師です』とお話をしますと、それだいたい理解をいただけます。

当検査科では、患者さまが少しでも早く医師の診察を受けることができればという思いから、平成11年、患者さまの診察前に検査が済むように、30分〜60分くらいで大部分の検査データを報告するシステムを構築しました。結果がでるのに時間がかかりますと、結果を聞くためだけに再来院をしなければなりません。結果が分かるまで、その間の不安な気持ちを、少しでも軽減できればとの思いもありました。

数年前からは、糖尿病療養指導やNST（栄養サポートチーム）の業務にも、チームの一員として参加しており、糖尿

病療養指導士として糖尿病教室での講義や、SMBG（自己血糖測定）の指導に携わっています。NST（栄養サポートチーム）では、医師・栄養士・看護師・薬剤師とともにチームで、患者さまの栄養管理の手助けをしています。最近始めた業務に、聴力検査に代表される耳鼻科関連の検査を多く手掛けるようになりまし。このように、患者さまと接する業務が多くなってきたのも、最近の傾向でしょうか。

「これからも患者さまが、少しでも安心して、気持ちよく検査を受けることができますように、努力を重ねていきますので、よろしく願います。」



## 市立小樽病院基本理念

### （病院理念）

良質の医療、信頼の医療を優しさと思いやりをもって提供する病院

地域の中核医療を担う市立病院で働く職員、医療人としての使命感を持ち協調して行動する病院

### （基本方針）

- ・科学的でかつ良質・効率的な医療の提供を目指します。
- ・医療の安全管理に最大の努力をほらいます。
- ・患者さまの満足度の向上に努めます。
- ・患者さまの権利を尊重し患者さま本位の人間味あふれる医療を行います。
- ・市立病院は市の行政施策のひとつとして存在することを認識し行動します。
- ・地域の医療機関や福祉施設等の連携等により地域完結型の医療を推し進めます。
- ・医療の使命に情熱を燃やす職員集団として日々研鑽に励みます。
- ・職種、診療科を超えたチーム医療に徹し病院の総合力を発揮します。
- ・良質で安全な医療を提供するため経営健全化に努めます。

## 健康のはなし

### 白内障について

人には誰でも年齢とともに生じるさまざまな身体的変化があります。例えば、しわや白髪が増えたり、ひざなどの関節が痛んだり、耳が遠くなったりします。白内障もその変化の一つです。70歳以上の方にはどなたでも程度の差はありますが、白内障はあるといわれています。一旦白内障になってしまつと、自然に改善することはなく、点眼薬で進行を遅らせることはできません。白内障を治すことはできません。そのため白内障による視力低下に対しては、手術以外に有効な治療はありません。医療の進歩により手術後の視力は良好なものとなってきていますが、ご自分の眼で見ることに勝ることはありませんし、手術には合併症などの危険

を伴いますので、手術を受けるかどうかは慎重に決めてください。

20年以上前の白内障手術は眼を、10年以上切開することが多くありました。しかし、最近では、機械の進歩とともに傷がどんどん小さくなり、3割程度の切開で手術可能となってきています（個人差がありますので、全員にこの手術が可能なわけではありません）。手術の必要な時期は、その方によって異なります。運転される方は0.7以上の視力が必要です。運転されない方でも0.4以下になると、新聞などの小さい文字が見づらくなります。その方の生活様式により、手術が必要なのかあるいは点眼などでもう少し様子を見るのか、さまざまです。最終的にはご自分の意思が大事になりますので、眼科医とよく相談してみてください。

眼科 大口 修史

# 理学療法室の紹介

リハビリテーションという言葉を、よく耳にされると思いますが、皆さんはこの言葉からどのようなことを想像するでしょうか？「リハビリ＝関節の曲げ伸ばしやマッサージ、歩行訓練など」とらえがちですが、本当はとて幅広い意味があります。



リハビリテーションとは、「再び適した状態にすること」を意味します。そのために行われるすべてのアプローチがリハビリテーションであり、その中の一つが理学療法です。理学療法とは、病氣・ケガ・寝たきりなどによって身体が不自由となった人々に対し、身体と心の両面から機能回復・維持を図る医療の一つです。

対象となる疾患は、整形外科疾患（骨折、変形性関節症、肩関節周囲炎、腰痛、切迫など）、内科疾患（糖尿病など）、呼吸器疾患（肺気腫など）、中枢神経疾患（脳血管障害、パーキンソン症候群など）、末梢神経疾患（顔面神経麻痺など）、また加齢に伴う安静により筋力が低下したり、関節が拘縮したりといった身体に何らかの障害を持つ患者さまにも広く対応しています。

内容は運動療法と物理療法に分かれ、運動療法では筋力訓練、関節可動域訓練、起居動作訓練、歩行訓練、生活指導などを、物理療法では低周波や温熱、牽引などで痛みの軽減を図ります。当理学療法室では各診療科の医師の指示の下に、日常生活動作の自立と社会復帰に向けた個別の訓練プログラムをたて、理学療法士4人、マッサージ師1人、助手2人で良質な理学療法を提供できるよう努力しています。

理学療法室 佐藤 耕司



## 汚れた壁にペンキを塗りました。

職員有志による「ペンキ塗り隊」の行動です。



## 正面玄関の「ピロティ」がきれいになりました。



退職された金子医療部長のご寄贈によりピロティを塗り直しました。



## 患者満足度調査から

看護部 質向上委員会

今年度第1回目の患者満足度調査を、7月に実施しました。外来は712人・病棟は230人の患者さまから回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

昨年からは始めたこの調査も3回目となり、今回から新たに医師についての質問事項を設けました。調査は、今年から委員会を立ち上げた「看護室 質向上委員会」が中心となっており、前回の調査で平均3.97点だったのが、今回4.08点（5点満点）とわずかながら上昇しました。項目ごとでは、「看護師の説明や言葉遣い・身だしなみ」については比較的良好な評価をいただきました。しかし、「患者さまの悩みへの対応やプライバシーへの配慮」は他の項目に比べて点数が低く、もっと、患者さま一人一人のご要望に耳を傾ける必要があると考えています。

また、自由記載でも貴重なご意見をいただきました。看護師の対応については、具体的なご指摘もあり、該当部署では早速、改善に向けて取り組んでいます。新病院への期待や励ましのお言葉もたくさん頂いたことに感謝申し上げます。次回の調査は平成20年1月頃を予定していますので、ご協力をお願いいたします。

## 患者満足度調査結果(外来)

質問	前回	今回
1. 看護師は話しやすい雰囲気でしたか	4.31	4.39
2. 看護師の言葉遣いや態度はいかがでしたか	4.31	4.42
3. 看護師の身だしなみはいかがでしたか	4.12	4.31
4. 看護師から、適切な言葉掛け(待ち時間・症状について)がありましたか	3.95	4.00
5. 看護師の説明は分かりやすかったですか	4.26	4.30
6. 看護師は、痛みや苦痛があることを理解して対応していましたか	3.75	3.96
7. 看護師は、患者さまの悩みや相談に対する対応は適切でしたか	3.68	3.94
8. 看護師は、患者さまのプライバシーに配慮していましたか	3.67	3.91
9. 看護師同士の連絡は取れていると思いませんか	3.80	3.71
10. 医師は症状などの話をよく聞いてくれましたか	-	4.15
11. 医師は、症状や治療方法の説明をよくしてくれましたか	-	4.12
12. 医師は質問したことによく答えてくれましたか	-	4.13
13. 医師の言葉遣いや態度はいかがでしたか	-	4.16
14. 医師の身だしなみはいかがでしたか	-	4.15
15. 看護師と医師との連絡は取れていると思いませんか	3.89	3.88
満足度平均点	3.97	4.08



アンケートの質問ごとに、回答内容で  
 「満足」 = 5点  
 「やや満足」 = 4点  
 「普通」 = 3点  
 「やや不満」 = 2点  
 「不満」 = 1点  
 「わからない」 = 0点  
 として換算し、平均を算出しました。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

樽病だより  
こころ

次回発行は  
来年1月の予定です

発行 市立小樽病院  
 編集 市立小樽病院広報委員会  
 ホームページ <http://www.med-otaru.jp/>  
 ホームページから過去の広報誌がご覧になれます。